

機械工具製造業(粉末や金業を除く)

金属と金属を削る工具の“マイスター”集団

7-24 株式会社 マイスター

競合との差別化を追求した結果行き着いた事業

山形県にある株式会社マイスターは、切削工具の再研削（刃物の切れ味を蘇らせるために工具を再研磨すること）・成形・改造と、治具・金型・部品の加工などを行う企業である。それぞれ「刃研課」、「精研課」と呼ばれ、日々取引先の企業から送られてくる多種多様な工具・治具を最高水準の精度で加工するという目標を持って業務を行っている。

「将来的にはグローバル規模の競争がますます激しくなっていくと思います。特に中国の台頭は脅威ですね。そのような状況の中で、マイスターとしてどのように競合と差別化していくかを考え続けなければなりません。現在は、特に加工の困難な金属や工具に焦点を当てた技術集約的な分野での事業展開を念頭に置いています。」と同社の現状と今後について説明してくれたのは総務部の増田氏。製造部、生産開発部、営業技術部といった社内各部署を結びつける役割を担っている。



再研磨後の切削加工具



超硬合金の研削加工品

高い対応力と学び続ける姿勢を作る支援制度

中国などとは異なる領域で勝負するためには、多種多様な顧客から寄せられる工具・治具の加工を行うことが求められる。

「高い対応力、汎用性。マイスターで働く上でこれらの力を具えることが重要です。また、競争相手も技術革新を常に行っていますから、私たちも今持っている技術をさらに高めていくための自己研鑽をし続けていかなければなりません。常に学習し続けられることも重要な能力の1つです。」とマイスターに求められる



増田氏

人材について増田氏は語る。

高い対応力と学ぶ姿勢を持ち合わせた人材を育成していくために、同社では様々な取組を行っている。例えば、「マイスターカレッジ」と呼ばれる活動は社内 Off-JT の研修制度である。社員は 4 半期毎の計画に基づいて、先輩社員や取引先・コンサルタントなどが講師となって経営管理や高度な技術などのテーマで講義を行うというもの。また、マイスターでは、実に社員の 8 割が社外の研修などに参加している。「この研修はカフェテリア自己啓発システムと呼んでいます。会社から各種セミナーの情報を提供し、社員が好きなセミナーを選択して受講してもらう方式を取っています。」技能検定はこの研修の一環として位置付けられているという。

「技能士の存在は会社の競争力の源泉そのものですから、育成には力を入れています。工具の研磨や治具の加工を担当する人のみでなく、営業職の従業員にも検定に挑戦してもらっています。」

技能検定が企業文化を醸成する

このように人材育成に注力しているマイスターだが、技能検定を受けるメリットについて具体的にどのような点があると考えているのだろうか。

「もちろん技能士の腕が製品の良し悪しに直結するという直接的な効果があります。また、営業職の従業員が技能士なので、営業で取引先に行った際の問題発見や解決策をその場で提案できるというのもマイスターの強みであると思います。」

しかし、増田氏は技能検定を受検する若手と先輩技能士との間で会話が交わされることで、学ぶことに前向きな企業文化を醸成されることもメリットだと語る。

「特に規則があるわけでもなく、慣行的に行われていることですが、検定合格者と受検者との間で行われるティーチング・ラーニングが、社内の従業員の関係改善に寄与していると思います。」

技能検定と企業文化。一見すると見えづらいこのような効果も、技能検定にはあるということである。

株式会社 マイスター

- ▶業種: 機械工具製造業(精密治具製造)
- ▶住所: 山形県寒河江市
- ▶代表者: 高井作
- ▶設立: 昭和55年
- ▶従業員: 50名
- ▶技能士: 35名

技能士へのインタビュー

森谷 真人氏（30 歳） 1 級機械加工技能士（平面研削盤作業）

働く人のことを考えた会社作りに共感して

切削加工工具の再研磨、加工の困難な超高硬度の金属加工といった高度な技術は、マイスターで働く多くの技能士達に支えられている。

事実、マイスターで働く約 50 名の従業員のうちのほとんどが、切削工具研削や機械加工といった職種の技能検定に合格した技能士である。

また、女性社員の採用や職域の拡大についても成功モデル、先進事例として取り上げられており、2004 年には機会均等推進企業として、山形県から表彰されるなどの実績を持っている。現に、同社では多くの女性技能士が業務に当たっている。従業員を会社にとっての「人財」と捉える同社の基本的な姿勢がよく表れている結果だと言えるだろう。

従業員同士の関係を密にするための仕掛けも数多く用意されている。同社の従業員は折に触れて社内のカフェテラスやバーカウンターで憩い、ダーツやビリヤードといった娯楽設備で親睦を深めることができる。

先輩社員から教わることの重要性

「働く従業員のことを中心に考えてくれる会社の方針にはすごく共感できますし、ありがたいことだと思います。」とインタビューに答えてくれたのは、森谷真人氏。森谷氏は平成 14 年に機械加工（平面研削盤）の 2 級技能検定に、平成 19 年に同 1 級検定に合格した技能士である。機械加工とは、金属を切削・研削して必要な形状に作り上げる作業である。機械加工職種の技能検定では、普通旋盤、フライス旋盤、マシニングセンタなど、使用する工作機械ごとに 1 級・2 級・3 級の試験が用意されている。森谷氏は工作物の平面を研削するための平面研削盤を選択し、技能検定に合格した。

森谷氏も技能検定に挑戦する過程で、既に技能士として業務に当たっている先輩社員にお世話にな



先輩社員が検定受検者にアドバイスをする。マイスターでは日常的な光景である。

ったという。

「自分の知らない知識や技術を先輩から教えてもらったのはとてもありがたい経験だと思っています。普段は無意識的に行っていた業務の意味や、作業の狙いといったものは、自分一人ではなかなか理解できるものではありませんから。」

スキルが上がると実感する技の奥深さ

技能検定に挑戦することで、森谷氏にとってはどのようなメリットがあったのだろうか。

「もちろん自分の腕が上がったというのもあります。また、『こうすればこうなる』というように、作業同士の間に因果関係があり、それが言葉で理解できるようになったのも収穫だったと思います。」と技能検定のメリットについて語る森谷氏。

しかし、検定合格のメリットは、自分の強みを伸ばす機会という位置付け以上のものと考えているようだ。

「技能検定を受けて、ものづくりの世界の奥深さが見えてきたというか、まだまだ自分は研鑽していかなければならないな、と痛感しているのが正直なところです。検定に合格して、自分のできることが増えれば増えるほど、金属を加工することの難しさや、先輩社員の技のレベルの高さというのがより理解できるようになりました。」



作業する森谷氏

技の高みを目指して複数の検定に挑戦したい

山の頂上に登れば下界の隅々までを見渡せるように、自分の技能を高めれば見えてくる新しい世界があるのかもしれない。森谷氏は自分のスキルの研鑽に意欲を見せる。「今後は違う検定にも挑戦してみたいと思っています。多様な技能を身に付けることでまた新しく見えてくる世界があると思うんです。」

自分に妥協せず、技の高みを目指していく従業員が、マイスターそのものを磨き続ける。